発達理論の学び舎

Back Number: Vol 148

Website:「発達理論の学び舎」

© YOHEI KATO 2018

目次

2941. 知的ゲームとしてのGREと作曲実践の方向性

2942. ストックホルムとヘルシンキでの滞在に向けた計画

2943. GREを通じた一生ものの単語のネットワークの獲得に向けて

2944. 他者と時代と共に作る曲

2945. 成人のシュタイナー教育

2946. 北欧旅行に向けて

2947. 言葉に固有の感覚を捉えることの大切さ

2948. 夏らしい午後より

2949. 日本の伝統楽器を用いた曲作り

2950. 雨降る朝に

2951.「絶え間ない自己教育」について

2952. GRE試験に向けて

2953. 散発的な雨と幼児の喃語より

2954. GRE試験の対策について

2955. シュタイナー教育に関する書籍の購入

2956. 空と曲に喚起されるもの

2957. GREの読解セクションの対策

2958. 自らの役割

2959. あの冬がやってくる頃：人生の暗夜

2960. 生気と正気が失われた現代

2941. 知的ゲームとしてのGREと作曲実践の方向性

時刻は午後五時を迎えた。確かに八月に入って間もないが、日が沈む時間が午後九時半あたりになったことを思うと、少しずつ秋が近づいてきていることがわかる。だがこの時間帯はまだまだ西日が強い。

今日は一日を通して涼しかった。このような日が続いて欲しいと願うが、明日と明後日はまた夏らしくなる。そこからまた今日のような気温の低い日が続くようだ。気温の変化が激しいので体調には気をつけたいと思う。

今日もGRE試験に向けた対策を進めていた。GREの問題を解くことをある種の知的ゲームとしてみなそうと思う。特に英文読解のセクションは論理パズルのような要素が強いため、ゲームとみなすことによって問題を解く楽しみが増すだろう。試験本番もある意味ゲームの大会のような感覚で臨むことにする。そうした心持ちになれるように本番まで学習を進めていく。

気づけば単語集も四周目に入っていた。四周目を今日か明日に終えたら、一度巻末の最難関単語1853個に目を通し、単語を一瞬眺めた時に、その意味が体感として掴めないものについて次々に印をつけていこうと思う。

基本的に1853個の単語は、単語集の本編の中で取り上げられたものであるため、あえて丁寧に同義語や例文を書き込んだりはしない。とにかくスピーディーに1853個の単語を確認していくことを心がける。それが終われば、五周目からは、赤鉛筆で印の入った未習得の単語を確認する中で、まだ習得できていないものを緑色の鉛筆でチェックしていく。それを一日かけて行う。六周目は緑色のチェックマークが付された箇所だけ確認し、同様のことを七周目で行う。それらはどちらも一日で完了するはずだ。そこから八周目では、そこでもまだ未習得の単語に今度はまた別の色を付す。そのようなことを繰り返していき、単語を完全に習得するまで単語集と向き合っていく。

GREの読解セクションと同様に、単語の学習もゲーム的な要素を取り入れたいところだが、今のところ良い案は思いつかない。ただし、単語の学習はゲーム的な喜びとは少し異なり、少しずつだが自分の語彙力がさらに拡張していることを実感すると、成長の喜びがある。それをより明確に感じられるような工夫をし、語彙力の着実な向上を実感するたびに成長の喜びを味わうことにする。

© YOHEI KATO 2018

今日はこれからGRE試験に向けた学習の休憩として作曲実践を行う。早朝にバッハの二声のコラールに範を求め、昼食後にハイドンに範を求めた。

今からバッハの四声のコラールを参考にして曲を作る。今回の実践からではないが、明日以降の実践において、これまでまだ使ったことのない演奏記号を実験的に活用していこうと思う。

ハイドンの曲に範を求めている時に、手持ちの音楽記号事典を眺めていると、いまだかつて活用したことのない演奏記号が随分とあることに気づいた。今後はそれらを積極的に活用してみることによって、作曲の幅を広げたいと思う。

昨日ふと思ったが、これから数年以内に、できるだけ多くの作曲家を対象に、彼らが一生涯をかけて残していった全ての曲を模倣していこうと思った。一人の人間の創造性は絶えず過去の創造者の影響を受け、彼らから引き継ぐものが無数にあることを考えると、この実践はなおさら意味があるように思えてくる。

楽器の演奏経験もなく、音符が一切読めないところから私は昨年に作曲実践を始めた。まだまだ学ぶべきことが山のようにあるが、最大の学びは自分で曲を作ることであり、同時に過去の偉大な作曲家を手本にしていくことである。とにかく、これまで過去の作曲家が積み上げてきたものの全てを汲み取ることを意識して、無数の作曲パターンを自らの内側に取り込みたいと思う。今から行う作曲実践もまたその一歩である。フローニンゲン：2018/8/5（日）17:22

2942. ストックホルムとヘルシンキでの滞在に向けた計画

新たな週がやってきた。その始まりはいつものようにとても静かだった。

今朝は六時半近くに起床し、七時前から一日の活動を始めた。起床した時間にはすでに太陽が昇っており、赤く光る朝日を拝むことができた。

今日の空は雲一つない。今は爽やかな風が吹いており、外は涼しい。ただし今日は最高気温が30度に到達するようであるから、午後からは夏らしさを感じることができるだろう。明日はまた異常な暑さとなるようであり、最高気温は34度になるようだ。明後日以降は再びフローニンゲンらしい気温となり、25度を下回るような日々が続いていくという予報が出ている。

予報を見ていて気になったのは、ここ最近は雨がほとんど降っていなかったが、明後日以降からは一日の中で突発的に雨が降ることが続くようだ。見えないところで季節も動いており、着実に新たな季節に向かっていることを知る。

昨夜は当初の計画通り、北欧旅行の予約を進めていった。まずは旅程を確定させ、どの街に何日間滞在し、具体的にどのような場所を訪れるのかを決定した。

八月末から九月の頭にかけて行う今回の北欧旅行は、まずはストックホルムに滞在することにした。最初計画していたのは日曜日の朝の便でストックホルムに向かおうとしていたのだが、日曜日はフローニンゲンからアムステルダム国際空港までの列車の本数がほとんどなく、結局ちょうど良い時間の列車が走っている土曜日に出発することにした。ただし、土曜日は朝に出発する飛行機ではなく、午後に出発する便に乗ることにした。フローニンゲンをゆったりと午前中に出発し、昼食は空港のラウンジで摂りたいと思う。出発まではラウンジでくつろぐことにする。

ストックホルムには8/25から8/29まで滞在する。四泊五日の間に巡る場所はすでに決めており、途中の一日を除いて、一日に一箇所だけ美術館や博物館を訪れ、あとはストックホルムの街を散策したり、カフェでゆっくりとする。

8/29の昼の便でストックホルムからヘルシンキに向かう。ヘルシンキ空港には午後三時半あたりに到着するため、その日はヘルシンキの街を散歩でもしようと思う。ヘルシンキ滞在の二日目は、今回一番楽しみにしているシベリウス博物館に行く。ヘルシンキの街から列車に乗って一時間ほど行ったところにフィンランド最古の町トゥルクがある。その町にシベリウスの博物館がある。

フィンランドの歴史を調べてみると、もともとはヘルシンキではなく、トゥルクがこの国の首都だったようだ。13世紀から18世紀の前半まではトゥルクがフィンランドの首都であったことを初めて知った。

トゥルクを訪れる当日は、シベリウス博物館を訪れる以外に何も計画はないため、自分の足でゆっくりと歩きながらこの町の歴史を探りたいと思う。ヘルシンキには五泊六日ほどの滞在予定であり、シベリウス博物館を訪れた次の日からは、ヘルシンキ市内にある美術館や博物館を訪れる。

© YOHEI KATO 2018

特にどこにも訪れることを計画していないような日を一日設けており、その日はヘルシンキの郊外に出かけていくのでもいいし、市内の公園で自然を眺めながら過ごすようにしたい。昨夜の段階で航空券の予約を全て済ませたので、今夜はホテルを予約しておきたいと思う。北欧の旅が少しずつ近づいてくる。フローニンゲン:2018/8/6(月)07:32

2943. GREを通じた一生ものの単語のネットワークの獲得に向けて

今日は一日を通じて作曲実践とGRE試験に向けた学習を進めていきたい。特にGRE試験に向けた学習に関しては、毎日少しずつ新たな楽しみを見出している。

この試験を終えた二日後に北欧旅行が始まることもあり、旅に対する高揚感の中で学習を進め、そして本番の試験を迎えることになるだろう。昨日までは読解のセクションの模擬試験を二日連続で解いていた。そこから様々なことを学び、これから解法戦略をより洗練させていきたいと思う。今日は一旦読解のセクションの模擬試験から離れ、再び単語の学習を積極的に進めたい。

昨日もかなりの量の単語を学習していたが、今日はさらに多くの単語を確認していこうと思う。今日中に単語集の四周目を終えたい。もうここまでくると、どの単語がなかなか覚えられないのかが明確になってくる。

GREで出題される難解な単語の中でもどうしても意味のイメージが浮かばないものがあり、そうしたものについては五周目から本格的に向き合っていきたいと思う。難解な単語の中で似たような形を持つ単語には注意が必要だと昨日改めて思った。例えば、“decry”と“descry”は「s」が真ん中にあるかどうかで意味が全く異なってしまう。その他にも、“plenitude”と“platitude”や、“hallow” “hollow” “fallow”、“turbid”と“turgid”など例を挙げれば切りがない。

GREの試験を六年前に初めて受けた時、こうした難解な単語の意味を覚えることに意味があるのかと疑問に思っていたが、実際に学術的な専門書や論文を読んでいくことを続けていくと、GREで出題されるような単語が比較的よく見かけられることに気づく。また、英文を執筆する際に、「何かを批判する」という意味の文章を書こうとした時に、“criticise”という単語しか知らないというのは表現の幅を著しく狭める。“criticism”の同義語でGREによく出題される単語としては、”censure,”

“denounce,” “condemn,” “lambaste,” “disparage,” “denigrate,” “deprecate,” “malign,” “vilify,” “reprobate,” “objurgate,” “excoriate,” “reprehend”などがある。

GREとはもう長い付き合いだが、単語学習を地道に続け、この六年間の探究生活の中で意味のわからない単語に出くわしたら、必ずその単語を調べることを自らに課していたため、今ではもう上記の単語の語感が全て“criticise”と似ていることを感じ取れるようになっているから驚きだ。

GREでは特に形容詞と動詞に関する難解な単語を抑えることが重要であり、合わせてそれらの同義語を知っておく必要がある。四年前に購入した手持ちの単語集はもう随分と使い込まれているが、ここからさらにそれを使い込んでいきたい。GREを受験するのはおそらく今回が最後になるであろうから、特に単語に関しては本当に強固なネットワークを今一度ここで構築しておきたい。GREを通じて獲得された単語のネットワークは一生ものであると思う。

単語学習の合間に気晴らしとして数学のセクションの問題を解き、ライティングセクションの模範解答の音読を繰り返していく。GRE試験に向けた学習と合わせて、今日も作曲実践に十分な時間を充てたいと思う。

GRE試験がやってくるまでは、試験に向けた学習をメインにし、その他には作曲実践と日記の執筆だけに絞っていこうと思う。この期間は読書から離れてもいいように思う。どうしても書物を読みたくなった日だけ、時間を決めて集中的に読書をするようにしたい。フローニンゲン：2018/8/6（月）08:00

2944. 他者と時代と共に作る曲

先ほど近所のスーパーに買い物に出かけ、今は昼食を摂り終えて一息ついている。近所のスーパーに向かう道中はとても爽やかであり、青空の下、清々しい光景が広がっていた。特に、スーパーに到着する前に渡る運河をかける橋からの情景は夏らしい輝きがあった。

運河の上に停泊する船と運河の上を進んで行くボートの情景を覚えている。また、運河の水面のなんとも言えない輝きも印象的である。買い物からの帰り道も、私は自宅に戻るまでの景色を楽しんでいた。青空を見上げると、そこには白く浮かぶ三日月が見えた。

今日の午前中は涼しいというよりも肌寒かった。早朝の風は冷たく、しかしそこに甘美さがあった。風にも味があるということ。そしてそれはその土地によって異なるということを感じていた。

今日はこれからハイドンに範を求めて作曲実践を行う。ハイドンの存在が自分にどんどんと近づいてきていることを実感する。今はもっぱらハイドンのピアノ小作品に範を求めている。ピアノソナタを参考にするのはもっと先のことになるだろう。

昼食を食べながら考えていたが、やはり私は創造することに大きな喜びを見出しているようだ。いやより正確には、創造を通じて自己を深め、深められた自己によってこの世界に関与する役割を担っているよう感覚があり、それが自分を創造活動へと導いているようだ。創造活動そのもの、そして創造活動を通じたこの世界への関与こそが自分に与えられた使命であることを最近よく思う。

“learning by creating”という言葉について考える。私たちの学びの本質には創造行為があるはずだ。逆に言えば、教育においては創造行為に従事することの支援を欠いてはならない。

果たして現代の教育は私たちの創造活動の支援に寄与しているだろうか。現代に普及する子供の教育にせよ、大人の教育にせよ、創造活動への支援という発想が欠如しているように思えるのは私だけだろうか。

これまでの日記で書き留めているように、創造活動というのは何も芸術的な活動だけを指すのではない。自分の内側にある思考や感覚を外側に形として表現する行為の全てを指す。それを抑圧するような力が教育の世界に働いているように思う。成人を見渡してみた時に、ほとんどの人が創造の喜びを忘却してしまっていることからそれは明らかだ。また持続的な発達というものが実現されていないのも、創造行為の抑圧が関与しているだろう。

人は創りながら学び、創りながら自己を深めていく。それをもう一度確認しておきたい。

これからハイドンの曲を参考にするにあたり、先ほど考えていたのは、過去の偉大な作曲家の仕事を参考にする過程の中で、絶えず自分固有の表現思想と表現技法が育まれていくということだった。過去の作曲家の作品を単に毎日参考にしているのではなく、それは常に自分固有の思想と技法を育むために行われているのだ。ここにも、他者の存在がいかに尊いことかを見て取ることができる。

© YOHEI KATO 2018

正直なところ、私は過去の作曲家がいなければ、そして彼らが作品を残してくれなければ、作曲など全くできなかっただろう。創造というのは人から人に継承されていくという性質が見えてくる。

確かに、私は毎日一人で曲を作っているが、それは決して一人で成し遂げられるものではないのである。過去の作曲家がいたからこそ日々の自分の作曲が成り立っている。私は一人で曲を作っているのではなく、常に他者と共に曲を作っているのである。そこには過去の作曲家が含まれているだけではなく、同時代の多くの人々も含まれている。私は他者と共に、そして時代と共に日々曲を作っているようなのだ。フローニンゲン:2018/8/6(月)13:26

No.1208: Forlorn Morning

The atmosphere of this morning is somewhat forlorn. Groningen, 09:31, Tuesday, 9/11/2018

2945. 成人のシュタイナー教育

時刻は午後の六時を迎えた。気づかないうちに今日もゆっくりと終わりに近づいている。起床してからこの時間になるまでの時の経過が本当にあっという間に感じられる。一日の時間が一粒の砂のように小さく、それでいて凝縮して感じられる。

今日も日記を書き、作曲実践をし、デッサンをするような一日だった。そこに最近はGRE試験に向けた学習が加わっている。試験後は、本来の生活である、日記、読書、作曲、デッサンの四つに打ち込むような日々になるだろう。そうした自分を今日改めて眺めてみると、自分は学びたいことを学びたいだけ学びたいように学ぶことを行っている、ということに気づいた。それはどこかシュタイナー教育を受けているかのような感覚だ。私は幼少時代にシュタイナー教育を受けたわけではないが、今自分がその教育を受けているような感覚がある。

そして、そのような学びを日々行うことがこれほどまでに深い充実感と幸福感をもたらすのであれば、シュタイナー教育の真価というのもそこにあるのではないかと思えてくる。日々の学びを通じて自己を豊かにし、涵養された自己を持ってこの世界に関与していくこと。それを実現させつつある自分がいることに気づく。

シュタイナー教育は幼稚園から高校までしかないが、シュタイナー教育の思想と実践は成人教育においても極めて大切なのではないかと思う。それは上述のように、自分が成人になってからシュタイナー教育のようなものを自らに施し、それによって毎日を充実感と幸福感の中に生きているという実体験から生まれた考えだ。そうしたことを考えてみると、シュタイナー教育の思想と実践をやはり深く学びたいという思いが込み上げてくる。確かに、現在手元にはシュタイナーの教育思想に関する書籍があるが、書物からでは得られない事柄があることは確かだろう。

おそらくシュタイナー教育の思想と実践の核は叡智のようなものであり、それは書物から汲み取れるようなものではなく、直接自分がその教育を経験するか、少なくとも実際にシュタイナースクールでの教育実践の様子を観察しなければ得られないだろう。

シュタイナー教育には成人教育に活かせることがたくさんあるように思えて仕方ない。特に、シュタイナー教育における芸術教育は、成人の芸術教育にも当てはまる大切な思想と実践があるはずである。そもそも、「成人の芸術教育」という言葉は全くもって市民権を得ていないであろうから、その言葉そのものを普及させていく試みに従事していきたいと思う。私たちは幾つになっても新しいことを学ぶことができ、幾つになっても学びを深めていくことができる。また、芸術活動に関しても幾つになってもそれを始めることができるのだ。そうしたことを自らの体験を通じて示していき、それに関する思想的かつ実践的な探究を進めていく。是非とも近い将来にシュタイナースクールを訪問してみたいと思う。オランダにいる間に、オランダのシュタイナースクールを訪れたい。

フローニンゲン大学の実証的教育学のプログラムでお世話になっていたマイラ・マスカレノ教授に九月にでも連絡を取り、シュタイナースクールの関係者を知っていないか尋ねてみようと思う。もし関係者がいれば、シュタイナースクールを実際に訪れ、その方にインタビューをさせてもらおうと思う。当面シュタイナー教育を核にし、子供と成人の芸術教育および霊性教育に関する探究を少しずつ進めていきたい。フローニンゲン：2018/8/6（月）18:27

No.1209: Trace of a Dream

I had an impressive dream last night. I feel that the dream still remains in me. Groningen, 09:45, Tuesday, 9/11/2018

2946. 北欧旅行に向けて

今朝は五時半過ぎに起床し、六時を迎えたあたりに一日の活動を開始した。八月を迎えて一週間ほどしか経っていないが、日照時間が確実に短くなってきていることを感じている。これまでは夜の十時半まで明るかったのに対し、昨夜は九時半を迎える頃にはもう暗くなり始めていた。また、今朝五時半に起床した時も、辺りは少し薄暗かった。そうした様子を見ていると、季節が着実に秋に向かっているのを実感する。今この瞬間の涼しげな景色からは想像できないが、今日はとても暑くなるようだ。最高気温は33度か34度に達する見込みである。

明日からは一転して涼しくなり、その要因に散発的な雨が続くことが挙げられるかもしれない。今週の金曜日の最高気温は21度であり、今日の最高気温と比べると10度以上も違うことになる。天気予報を確認すると、明日から夏とは思えないような涼しい日が続くようだ。

昨夜、無事に北欧旅行のホテルの予約を済ませた。ストックホルムに四泊五日、ヘルシンキに五泊六日の旅をする。二つの都市の気候について調べてみたところ、やはり北欧諸国だけあってか、フローニンゲンよりもさらに涼しいようである。旅行に出かけるのは八月末から九月にかけてであり、その時には随分と両国は涼しいようである。

思い出してみると、昨年八月の中旬あたりにノルウェーに旅行に行った時、朝夕の気温の差によって風邪のような症状になってしまった。今回はそうしたことにならないように、上に羽織るものを持っていきたいと思う。

ストックホルムのホテルにせよ、ヘルシンキのホテルにせよ、今回もゆっくりと落ち着けるようなホテルを選んだ。先日、デ・ホーヘ・フェルウェ国立公園付近のホテルに宿泊した時、そこが非常に落ち着きのある好印象を私に与えた。

今回の宿泊先も先日のオランダ国内旅行と同じようなホテルに宿泊する。朝と夜はホテルで過ごすのであるから、ここ最近はしっかりとくつろげるようなホテルに宿泊するようにしている。また、旅行中は日中に自らの足で色々と見て回ることにしており、朝食をしっかり摂る必要があるため、ホテルの朝食の質についても少々こだわっている。今回宿泊するホテルはどちらも非常に質の良い朝食を提供しているらしいので楽しみだ。

航空券とホテルの予約を済ませ、さらにはどの日にどこに行くのかも決めたため、北欧旅行に向けての準備は整ったと言える。出発まで三週間弱あるが、出発の日はあっという間にやってくるだろう。旅に行くと決めてから出発までのこの期間に味わう静かな高揚感を大切にしたいと思う。まだ旅に出かけていないにもかかわらず、こうした高揚感を味わえるのも旅の醍醐味の一つと言えるだろう。

今回の北欧旅行は先日のオランダ国内旅行と同様に、一つ一つの場所をゆっくりと時間をかけて巡る落ち着いた旅としたい。北欧の自然や文明とゆっくり対話するような時間となれば幸いだ。フローニンゲン：2018/8/7（火）06:36

No.1210: An Exhausted Savior

Even a savior seems to be exhausted in this modern society. It is eons ago that a savior appeared in our society. Groningen, 10:45, Tuesday, 9/11/2018

2947. 言葉に固有の感覚を捉えることの大切さ

時刻は午前六時半を迎え、少しずつ赤レンガの家々の屋根に朝日が当たり始めている。確かに今日は雲一つなく、日差しを遮るものがないため、日中は気温が上がるというのもうなづける。

書斎の窓際に近寄り、開けた窓から耳を済ませてみると、小鳥の鳴き声が聞こえて来る。そして開かれた窓からは冷たい空気が流れてくる。

日々小鳥の鳴き声に耳を傾け、流れる風を感じること。それもまたフローニンゲンでの生活の一つの習慣になっている。

いつもと同じように今日の活動について少しばかり書き留めたいと思う。取り組みの外形についてはいつもと全く変わらない。自分には探究活動と創造活動しかないのだから。

ただし今は、二週間後に迫ったGRE試験に向けての学習を進めているため、これまでの日々とは若干異なる活動内容が毎日の活動に組み込まれている。今日も積極的にGREの学習を進めていく。今日は手持ちの単語集の巻末に記載されている1853個の最難関単語を全てざっと確認する。

昨日の段階で本編を四周ほど回しているため、1853個の単語についても単語を見ただけでその単語の意味を感じられるようになっているだろう。GREの学習に際しても完全にそれを英語空間の中で行っているため、ある単語について英語で説明することはできるが日本語の正確な訳は知らない。日本語の訳を覚えることは全く必要ではなく、むしろ各単語を英語のままその質感を掴めるようになってきていることは本当に喜ばしい。とりわけ各形容詞に含まれる語感覚が自分の英語空間の中で豊かに構築されつつあることは本当に喜ぶべきことだと思う。

七年前に初めて米国で生活をした時、各単語の意味が分かったとしても、それを真に自分の身体を通じて感じることが極めて難しかったことを思い出す。あれから七年経ち、この七年間を英語空間の中で生活することを通じて、自分の内側に英語で構築された豊かな意味のネットワークがようやく構築されつつあるように思う。

今日も単語学習に力を入れていくが、その際には各単語が持つ意味の感覚を掴むようにする。一つの単語の意味をわかるための前提条件として、身体でその単語の感覚を感じられるかが極めて大切である。

実はGREの単語力を試す問題については、難解な単語の正確な意味を知っていることよりも、各単語が持つ独自の感覚を掴んでいることの方が重要な場合が多い。例えば単純に、それが否定的な語感を持っているのか、肯定的な語感を持っているかを身体を通じて理解しておくことができれば、随分と問題は解きやすい。一例として、“debunk”や“belie”には否定的な語感が含まれており、“extol”や“exalt”には肯定的な意味が含まれていることがわかればよい。そこから否定・肯定の二つの大雑把な感覚ではなく、より微細な感覚を磨いていけばいい。例えば、“bolster”と“butress”は肯定的だが、より厳密には「支える」という意味の感覚が含まれていることや、“lewd”と“salacious”は否定的であり、淫らな語感が含まれていることを掴めればよい。そうした感覚を、単語を見た瞬間に感じられるかどうかがカギを握る。

ここ最近、象形文字の漢字とは本来異なるはずのアルファベットの文字列としての単語を眺めた時に、その単語固有のイメージと感覚が浮かび上がってくるようになってきているのは大きな進歩だろう。こうしたことを感じられるようになるまでに随分と時間がかかった。実際に英語空間の中で生活をしてこなければ、こうしたところまで辿り着くことは極めて難しかったにちがいない。英語空間におけ

るこうした感覚の進歩は、日本語空間におけるそれと同様に、一生涯をかけて育まれ続けていく。そのため、今自分が獲得している英語空間上の感覚をさらに磨いていく精進を今後も続けたいと思う。今日の単語学習もその大切な一歩である。

今日は単語学習のみならず、ライティングセクションの模範解答の音読と採点基準の精査を行っていく。また今日は気晴らしとして数学のセクションの問題を解きたい。今日は読解のセクションの模擬試験の問題を解くことはしないが、明日から二日連続でペーパーベースの模擬試験の問題を解き、来週からは実際の試験と同様のコンピューターベースの模擬試験の問題を解こうと思う。

GRE試験に向けた対策を通じて、自分の内側の英語空間をさらに豊穣なものにしていく。今は自分の日本語空間を育てるために和書を読む時間が全く取れないが、GRE試験が終わったら、再び和書を時折読むような生活を送りたいと思う。英語、日本語ともに言葉の世界をさらに豊かにしていきたいと思う。フローニンゲン：2018/8/7（火）07:05

No.1211: Time

I notice that it is almost 5 p.m. Time sharply and roundly passes by. Groningen, 17:02, Tuesday, 9/11/2018

2948. 夏らしい午後より

今日はとても暑い一日である。時刻は午後の五時に近づいており、この時間帯が最も気温が高くなる。現在の気温は35度だそうだ。こうした暑さにあっても、オランダの家庭には基本的にはクーラーなどないため、窓を開けて暑さをやり過ごすことになる。

今は書斎の窓を開け、カーテンを閉めてなんとか暑さをしのいでいる。確かに今日は真夏の気温だが、明日からは一気に気温が下がる。明日の最高気温は今日と10度ほど違う。明々後日には最高気温が20度まで下がってしまう。今日のような暑さよりも、やはり25度前後の日々がとても快適だと思う。

八月のその後の天気がどうなるか読めないが、七月が最も気温が上がる月であることを踏まえ、さらには日照時間もここ最近短くなってきていることを考えると、今日のような暑さになるのは最後かもし

れないと予想している。多くても後二、三回ほどこのような暑い日がやってくればもう秋になるだろう。

今日は作曲実践と並行してGRE対策を進めていた。数学のセクションの問題は本当に気晴らしになると改めて実感する。対策問題集の問題を一通り解いたら、それ以上に対策をする必要などないだろう。試験前に一度コンピューターベースの問題を1セット解いておけばそれで十分だ。四年前からもうこのセクションの点は上がらないほどになっているので、後は問題を読み間違えるものがなければ納得のいく点数が取れるだろう。

一方で、やはり焦点を当てるべきは読解セクションとライティングセクションだ。読解セクションの対策として、手持ちの網羅的な単語集をこれまで何回も繰り返し学習してきた。今日からは巻末の1853個の単語を学習していた。しかし途中で気づいたが、後半に掲載されている単語があまりにも些細なものであり、実際のGRE試験では問われそうにないようなものが多数掲載されている。これらの単語をまた一から覚えようとしていると時間が足りず、さらには精神的な負担がかなり重いように思われたため、それらの単語については学習しないようにする。

むしろ、本編の3861個の単語をそれこそ完全に習得することに意識を向けた方が賢明だ。それらの単語さえしっかりと習得されていれば、仮に選択肢の中に巻末の難解な単語が混じっていたとしても、消去法によって問題に解答することは十分に可能である。

明日からは本編の五周目に入ろうと思うが、単語の学習ばかりに時間を充てるのではなく、ここからは読解問題の形式に慣れることと、自分が間違えやすい問題をパターン化することに時間を充てたいと思う。また、ライティングについてもとにかく形式に慣れるようにし、模範解答の質感を身体的に掴むために何度もそれを音読する。四年前に受験した時は、4.5/6.0が最高得点であり、今回は5.0を越すことができればと思う。

GREのライティングセクションでは、とにかく硬質な英文を大量に書くことが要求されており、タイプミスを気にして文章をゆっくりと書いていくよりも、とにかく流れ出すように文章を執筆していくことにしたい。一つ一つの論点について十分に掘り下げた英文を多く執筆することが5.0以上の点を取るた

めのカギとなるだろう。今日はこれからライティングセクションの対策を行い、それ以降は作曲実践に時間を充てたいと思う。フローニンゲン：2018/8/7（火）16:58

2949. 日本の伝統楽器を用いた曲作り

時刻は午後の七時を迎えた。つい今しがた夕食を摂り終えた。気づけば毎日随分と慎ましい食生活を送るようになった。

現代人が気付かないうちにどれだけ過食になっており、それが身体の調子を崩し、感覚の鈍化につながっているかを先ほど考えていた。ここのところ夕食がとても質素なものになっているが、意識してそうなったわけではなく、自然とそのような食事になった。おそらく今の私が欲しているのはそうした食事なのだろう。

今日は午後から気温が非常に上がったが、これから夜にかけて気温が下がっていく。明日はすごしやすい気候になりそうなので何よりだ。

今日はこれまでのところ、三曲ほど曲を作った。早朝にバッハの二声のコラールに範を求めて一曲作り、昼食後にはハイドンを参考にして一曲作った。夕方にはショパンの曲を参考にしてさらに一曲作った。

デッサンと同様に、作曲はその時々の自分の内側の感覚をユニークに表現してくれるので非常に面白いと改めて思った。私たちは一瞬一瞬変化を遂げているが、そうした一瞬に込められた変化がその作品の中に体現されている。それゆえに、一曲たりとも同じ曲が出来上がらない。一つ一つの曲はある瞬間の自分を捉えており、常に新たな曲が生まれてくることの不思議さを思う。

今日は就寝前にさらにもう一曲作ろうと思う。その際は、早朝と同様にバッハに範を求めようと思う。

早朝の作曲実践の際に、日本の伝統楽器である尺八とピアノを組み合わせて作曲してみた。以前から日本の伝統楽器に関心を持っており、いつの日か和を強く感じられるような曲が作れないかと考えていた。毎日ではないが、これから少しずつ、日本の伝統楽器が含まれたピアノ曲を作りたい

と思う。ピアノと日本の伝統楽器の組み合わせは一見すると奇妙に思えるかもしれなが、今の自分にはこの組み合わせが一番魅力的に映る。

多くの楽器を用いるのではなく、まずは二つの楽器の組み合わせによって曲を作っていく。この技術を高めていくためには、日本の伝統楽器に対する理解を深める必要があり、同時にオーケストレーションの技術にも習熟する必要がある。それらについては今後時間をかけて取り組んでいきたい。今日は尺八とピアノを組み合わせたのだが、全ての小節にわたって尺八を鳴らし続けていた。あえて尺八の音を鳴らさない小節を設けてみてもよかったかもしれない。

いかんせんオーケストレーションに関する知識が一切ないため、今日はそれらの楽器を直感的に組み合わせて曲を作っていた。十分な実践を積み、作曲体験を豊かにしていくことを最優先させるのは悪くない。むしろそれが望ましい。一方で、作曲実践をさらに豊かにしてくれる知識の習得に今後はより励んでいきたい。この夏は、芸術教育と霊性教育に関する書籍、そして作曲に関する専門書を心ゆくまで読みたいと思う。フローニンゲン：2018/8/7（火）19:36

2950. 雨降る朝に

早朝目を覚ますと、時刻は午前四時だった。随分と目覚めが早かったので、そこからもう一時間半ほど眠ることにした。五時半に起床した時には、雨音が聞こえてきた。今日は久しぶりに雨のようだ。

昨日は相当に気温が上がり、今日の雨はフローニンゲンの街全体を冷やすかのように降っている。気温は昨日よりも10度ほど低い。今日から一週間は涼しい日が続くことになる。雨が降ったのは久しぶりであるから、先ほどまで書斎の窓の方に近寄り、雨の降る様子を眺めていた。特に目的もなく、雨の音に耳を傾け、雨が静かに降っている様子をただ眺めていた。

雨が静かに降りしきる中、今日の活動の計画について簡単に書き留めておこうと思う。今日はまず最初に作曲実践を行う。バッハの二声のコラールに範を求めて一曲作る。その後、ハワード・ガードナーの“Creating Minds: An Anatomy of Creativity Seen Through the Lives of Freud, Einstein, Picasso, Stravinsky, Eliot, Graham, and Gandhi (1993)”を読み始める。本書は、領域の異なる過去

の偉大な七人の創造的な人物を取り上げ、彼らの創造性の特徴を発達心理学を含めて様々な観点から論じたものである。

昨日の段階で本書の全体を眺め、どこの章を念入りに読むかを確認していた。三つのパートから構成されているうちの、最初のパートにおける「創造性研究へのアプローチ」をまず読み、二番目のパートの中ではピカソとストラヴィンスキーの箇所を読む。最後のパートにおいては、「多様な領域における創造性」という箇所を読んでいこうと思う。

ガードナーは一般書を多く執筆する多産な学者であり、彼の書籍から得るものは非常に多い。一冊一冊は比較的分量があるため、自分の関心に合致する箇所を丹念に読むように心がけていく。

芸術教育や霊性教育の探究に並行して、創造性に関する探究も行っていきたいと思う。なぜなら、それは芸術性や霊性と密接に関わっているものだと考えているからだ。

フローニンゲン大学での最初のプログラムは「タレントディベロップメントと創造性」というものであり、まさに創造性に関する探究を科学的に行ってきた。しかし今の私は、創造性を科学的に探究するというよりも、思想的な側面から探究を進めていきたい。その際にガードナーの書籍は非常に有益だ。

ここのところ、芸術教育や霊性教育に対する関心が高まるばかりである。その背景には、自分の実際の体験として、それらがいかに重要で意義のあることかを感じていることが挙げられるだろう。

シュタイナーも述べているように、絶えず自己教育を施し続けることが人間として充実した人生を送ることに不可欠である。シュタイナーは自己教育の対象を細分化していなかったが、現代においてそれを細分化するならば、それは芸術教育、霊性教育、投資教育の三つに分けられるのではないかと思う。前者二つが自己を深める際に極めて重要な役割を果たす一方で、後者はこの現代社会を生きていく上で不可欠な役割を果たす。私たちは精神的かつ物質的な次元で生きていることを忘れてはいけない。

どうも片方の次元を強調しすぎるような風潮が世間では見られるが、それらのどちらも大切なのだ。片手落ちの状況であると、人は結局豊かに生きることはできないのではないかと思われる。とりわけ、

文明圏に生まれた人間にとってみれば、物質的な生活をないがしろにすることはできないだろうし、仮に物質的に豊かでも、精神的な生活を豊かにしなければそれは質的に貧しい生だと言わなければならないだろう。いずれにせよ、現代人が真に充実した形で人生を送るためには物質的・精神的な次元の双方で自分の望む豊かさが必要だ。そうした豊かさをもたらすのが、上記で挙げた三つの教育なのだと思う。フローニンゲン：2018/8/8（水）06:42

2951.「絶え間ない自己教育」について

シュタイナーが述べていた「絶え間ない自己教育」という言葉について引き続き考えている。雨脚が強くなり、少しばかり開けている書斎の窓から、雨の降る音が鮮明に聞こえて来る。もうしばらく雨は降り続け、午前中に一旦止むようだ。ここ最近の日記でも言及していたが、私は日々自らにシュタイナー教育を施しているかのように思える。

シュタイナー教育は高校の過程まででプログラムは終わりだが、実は成人期以降にも継続してシュタイナー教育の真髄を自己に与えて続けていくことが大切なのではないかと思う。シュタイナー教育の思想と実践を突き詰めていけば、そこには解放があり、真の自由があるように思えてくる。

シュタイナー自身が執筆した書籍については以前に何冊か購入し、それらを読み進めてきたが、シュタイナー教育に関する一般的な書籍をまだ一冊も読んでいないことに昨夜気付いた。早速調べてみると、いくつかの興味深い書籍を発見した。それらの書籍については今日中に購入をしておきたいと思う。シュタイナー教育への関心が日増しに強まり、この教育システムにおける芸術教育と霊性教育はどのような思想のもとに、どのように行われているのかということに関心がある。

シュタイナー教育の教育思想と教育実践の具体的な内容を掴むことができるような書籍に出会ったため、九月以降はそれらの書籍を丹念に読むことに多くの時間を充てたいと思う。

絶え間ない自己教育について。今私は、自らに芸術教育と霊性教育、そして投資教育を施している。霊性教育に関して言えば、これまで意識せずともそれを自分に施していたようだ。とりわけ、ジョン・エフ・ケネディ大学の大学院に留学して以降から、自己に対する霊性教育を積極的に行うようになったと思う。芸術教育については、本当に欧州に来てから、しかも欧州での一年目の生活の後半にその重要性に気付かされた。確かに、これまでも芸術を愛でる心を持っていたことは幸運であっ

たが、本格的に芸術を探究し、自らが創造活動に従事するとは思ってもいなかったことである。そして最後に挙げた投資教育であるが、これは広く金融教育を指す。実は大学時代に最も関心があった領域は会計及び金融であり、大学で過ごした四年間で履修した授業の多くは会計と金融で占められていた。当時はそれらの領域を学術的に学ぶことが求められていたが、今はむしろ実践を通じて学ぶことを行っている。しかも領域は投資に絞り、実践を通じた学びを深めている。

精神的な次元をないがしろにする人は、心が困窮した状態で人生を過ごす。一方、物質的な次元をないがしろにする人は、物質的に困窮した状態で人生を過ごす。これまでどちらかに該当する人たちを嫌ほど見てきた。そのたびに、なぜ双方の次元を大切にしないのだろかと疑問に思い続けていた。結局そこには、包括的な教育の欠如、つまり芸術・霊性・投資教育を人は受けていないことが問題として挙げられるように思う。少なくともそれら三つの教育を自己に施し続けてみようと思う。その結果、自らの人生がどのようなものになっていくのかは今後明らかになっていくだろう。

おそらく、それら三つの教育は人生を通じて緩やかに進められていくものであるが、投資教育を自己に施す割合は徐々に減っていき、最終的には芸術教育と霊性教育が残るであろう。物質的な次元での豊かさはあるところで天井を迎え、精神的な豊かさは無限に深くなっていくものだろう。そこに量的な世界と質的な世界の究極的な違いがある。フローニンゲン：2018/8/8（水）07:03

2952. GRE試験に向けて

早朝より降り続けていた雨が一旦止んだようだ。思っていた以上に早く雨が止み、今は冷たい風が吹いている。空には依然として雨雲がかかっているから、今日のどこかで再び雨が降り出すだろう。

今日は作曲実践とガードナーの書籍を読むことに加え、二週間後に迫ってきたGRE試験の対策を進めていく。こちらについてはとても順調に進んでいるように見える。

昨日は、手持ちの単語集の巻末に掲載されている旧GRE試験で問われたような重箱の隅をつつくような単語まで覚えようとしていたが、それは徒労のように思えた。そうした単語を覚えるために時間を使うよりも、自らの探究活動と創造活動に時間を充てた方が良いと判断した。確かに、今回が最後になるであろうGRE試験は大切なのだが、それよりも大切なことが自分の人生にはあるという認識

を再度持った。今日のGRE対策に関しては、午前中に対策問題集の模擬試験の問題を解いていく。読解セクションを1セットほど解く。

明日にもう1セットほど解けば、ペーパーベースの模擬試験の問題を全て解いたことになる。明後日以降からは、コンピューターベースの模擬試験の問題を解いていこうと思う。ただし、明後日以降からは毎日模擬試験を解くのではなく、試験日から逆算して適度な間隔で模擬試験の問題を解いていくことにする。午前中に読解セクションの問題を1セット解いたら、再度作曲実践をすることにしたい。

昼食前に、午前中に解いた問題の解答解説を読むことを行い、午後からはライティングセクションの対策に入る。昨日から本格的に模範解答の音読と採点基準及び模範解答に対する採点官のコメントを読むことを始めた。

六年前や四年前にGREを受験した時は、ライティングのテンプレートに強く頼り、結局公式問題集の模範解答や採点基準から学びを得ようとする姿勢が希薄だったように思う。それが6点満点中の5点を超えられなかった要因なのではないかと最近になってようやく気づく。

この二年間、フローニンゲン大学で学びを得ることによって、学術的な英文を執筆することに関してさらに磨きがかけられた。GREのライティングは確かに特殊であるが、この二年間に培ったものをうまく反映させていきたいと思う。

読解セクションとライティングセクションの対策にとりわけ力を入れていき、数学のセクションの問題は今日も気晴らしとして解いていこうと思う。こうした一連の対策を計画通りに済ませ、ガードナーの書籍を読み、作曲実践を少なくとも三回ほど行うような一日になるだろう。それでもまた余力があれば、今日から単語集の五周目を始めていきたい。ここからは未だ覚えることのできていない単語に緑色のチェックマークを付けていくことを行っていく。二週間後の試験まで、今日と同じような生活リズムが続いていくだろう。フローニンゲン：2018/8/8（水）07:19

No.1212: A Gentle Calling from My Soul

I can hear a gentle calling from my soul.

It embodies the essential aspect of sternness and strongly encourages me. Groningen, 09:24, Wednesday, 9/12/2018

2953. 散発的な雨と幼児の喃語より

昼食を摂り始めるとすぐに雨が降り始め、昼食を摂り終える頃には雨が止んだ。今は幾分晴れ間さえ顔を覗かせている。

通り雨の独特な香りが辺りに立ち込めている。雨が降っている最中、その音に静かに耳を傾けていた。実は雨の音はとても美しいということがわかってくる。雨の音の美しさを知覚したのは初めてのことかもしれない。

今日は空一面を雲が覆い、雨が散発的に降るおかげもあって過しやすい気温だ。久しぶりの雨を喜んでいるのは私だけではなく、フローニンゲンに生息する多くの生き物も同じことを思っているはずだ。そうした生命たちの喜びが雨の音に含まれ、結果として雨の音が美しく聞こえていたのかもしれない。

音に関して文章を書いていると、ふと今朝方のことを思い出した。私は普段早寝早起きだが、左隣の家の住人も早寝早起きだ。

左隣の家には一歳に満たない幼児がいる。以前その男の子を抱きかかえた父親と話をしている時に、男の子に話しかけてみたが言葉を返すことはまだ難しいようだった。

今日も早朝の六時半あたりに、その男の子が何やら喜びながら喃語を発している声が聞こえた。何をつぶやいているのかはわからないが、その声には嬉しそうな感情が乗っていることだけは確かだった。男の子の喃語に言語的な意味は含まれていないのだが、感情的な意味が含まれていることが大変興味深かった。それは声のトーンやリズムなどによってわかる。

ここに作曲上のヒントが隠されているような気がした。やはり音楽記号を活用することによって、ある特定の感情を喚起することは十分に可能であり、それこそ無数の感情とその機微を意識的に曲として表現することが可能であるということがわかってくる。

隣の男の子の喃語から作曲上のヒントを得るとは思ってもいなかった。明日以降もその声が聞こえてきたら耳を傾け、声に含まれる感覚の機微を捉えるようにしたいと思う。そして、その声がどのような過程で言語的発達を遂げていくのかも合わせて観察しようと思う。喃語から初語に変わる瞬間が楽しみである。それは紆余曲折する発達プロセスを辿りながら、非線形的にやってくるだろう。

ここ最近は、本当に柔らかな感覚が絶えず内側を流れている。それはそのまま落ち着きという感情として現れてくる。その感覚を身体的に捉えると、やはり柔らかさが際立っており、色はクリーム色だ。クリーム色の長閑な畑道を歩いているような感覚がするのである。そんな感覚を持ちながら早朝の作曲実践に取り掛かっていた。

今日はこれからハイドンに範を求めて曲を作る。ここ数時間連続して、ハイドンのピアノ曲を聞き続けている。昨日と同様に、今朝方の作曲実践では、日本の伝統楽器である尺八を取り入れて曲を作ってみた。和的な音を生み出すための探究を引き続き続けていく。

今後探究していきたいと思っているのは、ピアノだけを用いて和を感じられる音を出すにはどうしたらいいのか、という点についてである。おそらく今の私はピアノが持つ大きな可能性についてほとんど何も知らないのだろう。例えば、ピアノはジャズのような雰囲気の音を生み出すことができるように、おそらく何かしらの工夫をすれば十分に和的な音楽世界をピアノだけで構築できるに違いない。

そのカギは、ハーモニーやメロディーにあるのか、あるいはその他の要因にあるのかは定かではないが、焦らずそれを探っていくことをしていきたいと思う。このあたりについてはまた今度、上の階に住むピアニストの友人に話を聞いてみようと思う。フローニンゲン：2018/8/8（水）13:11

No.1213: Inner Merry-Go-Round

I was thinking about the importance of having a merry-go-round in our inner world. Our merry-go-round can be a safe place to rest and start a new challenge. Groningen, 09:40, Wednesday, 9/12/2018

2954. GRE試験の対策について

時刻は午後の七時半を迎えた。今日は雨に見舞われながらも、一日を通してとても涼しかった。明日はさらに気温が下がるようだ。

今日は午前中にGREの読解セクションの模擬試験の問題を1セットほど解いた。今日の出来は褒められたものではなかった。そもそも制限時間以内に問題を解き終えることができず、結果も全く満足のいくものではなかった。当然ながらGRE試験では難解な単語を大量に覚えておくことが求められるが、今の私の課題はそこにあるのではなく、読解問題をいかに解いていくかという点にあると言えそうだ。それはタイムマネジメントに関するものでありながら、さらに厳密には、問題で試されていることが何なのかをより正確に掴む必要があるように思う。

読解セクションにおいては少しずつ主題者の意図が分かりつつあるが、まだそれは完全ではない。特に、実際に問題を解いている最中は出題者の意図を捉える余裕のようなものがまだない。このあたりは普段の学習の際にいかに意識をしておくかが大切になるだろう。

読解セクションの中には、複数の空欄を選択肢の中の単語で埋めて複数のパラグラフの意味が通るようにする問題群がある。この問題に正解するためには、文章の中に盛り込まれているちょっとした単語がカギを握ることが多い。それは形容詞であったり動詞であったり、接続詞であったりする。それらを見落としてしまう時は大抵問題に間違える。明日以降の学習では、そうした単語をいかに見落とさないかを特に心掛ける必要があるだろう。

長文読解に関しても、幾つかの問題で間違えてしまった。一問は実際に本番で出題された際には解けないであろう問題であったためそれは仕方ない。だが一方で、確実に正解をしなければならないような問題まで取りこぼしてしまったことについては対策を打っていく必要がある。

今日は制限時間以内に解き終えることができず、やはり所々日本語を介在させて素早く思考することが大切になってくるかもしれない。今日の反省を踏まえて明日にもう一度1セットほど問題を解きたいと思う。問題を解く前にどのような点に気をつけながら問題を解いていくかを明らかにしておきたい。さもなければ模擬試験を解く意味が薄れてしまうだろう。

今日はこれからバッハの四声のコラールに範を求めて一曲作る。夕方に読み終えた創造性に関するガードナーの書籍には刺激されるものがあった。本書は今後も折を見て読み返すことになるだろう。

これから行う作曲実践もそうだが、毎回の作曲では、常に何かしらの新しいことを試していきたいと思う。自分なりに問題を設定し、実験に次ぐ実験をする。生まれたものが音楽的なものなのかどうかというのは一切気にする必要はない。とにかく自分の内側の感覚を自由に曲として表現出来ることが理想の境地であり、そこに向けて無数の作品を実験を通じて生み出していく。毎回自らに問題を課し、自らで問題を解いていく。

作曲というのは問題設定と問題解決の側面を多分に帯びていることが見え始めた。今から行う作曲実践でも自分なりに問題を設定し、それを自分なりに解決させていきたいと思う。人は問題設定と問題解決から学んでいくのだということを改めて肝に銘じる。フローニンゲン：2018/8/8（水）19:51

No.1214: A Rhythmical Dance of Soul

Leaves of street trees are oscillating by a gentle breeze. Corresponding to it, my soul starts to dance. Groningen, 10:54, Wednesday, 9/12/2018

2955. シュタイナー教育に関する書籍の購入

今朝は六時を少しばかり過ぎた時間に目覚め、六時半頃から一日の活動を開始させた。早朝のフローニンゲンの空は晴れ渡っているが、今日は午後から夜にかけて雨が降るらしい。この瞬間の空の様子だけから判断すると、雨が降るということが信じられない。空には雲一つないのだが、おそらく午後に向かうにつれて、雨雲がやってくるのだろう。

昨夜、一日の探究活動及び創造活動を終えた後にシュタイナー教育に関する書籍を購入した。これまではシュタイナー自身が執筆した書籍を中心に読んでおり、シュタイナーの哲学思想や芸術思想に関する理解を深めるように努めてきた。そこから関心がさらに広がり、シュタイナー教育そのものについてより探究をしていきたいと思うようになった。その背景には、現在の私が芸術教育と霊

性教育に強い関心を持っており、それらを語る上でシュタイナー教育は不可欠な存在であるということが挙げられる。

昨夜はイギリスのアマゾンを経由して下記の五冊の書籍を購入した。

1.“Steiner Education in Theory and Practice (1992)”

2.“Understanding Waldorf Education: Teaching from the Inside Out (2003)”

3.“Education Towards Freedom: Rudolf Steiner Education: A survey of the work of Waldorf Schools throughout the world (2008)”

4.“The Tasks and Content of the Steiner-Waldorf Curriculum (2014)”

5.“Rudolf Steiner’s Curriculum for Steiner-Waldorf Schools: An Attempt to Summarise His Indications (2015)”

予定では五冊とも北欧旅行の前に届くようであり、旅行の前からこれらの書籍を読み進めることができることを嬉しく思う。シュタイナー教育に関する書籍を吟味している時に気付いたが、これまで探究を続けてきた発達理論とこれから探究を進めていこうとする教育哲学をシュタイナー教育と結びつける大きな探究に乗り出していこうと思う。

既存の学びと新たな学びをシュタイナー教育と結びつけていく。そもそもシュタイナー教育について学ぶことそのものも自分にとっては新たな学びなのだが、それは発達理論、芸術教育、霊性教育、美学などを結びつけてくれる役割を果たしてくれるだろうと期待している。

上記の書籍の何冊かは今週末か来週の早い段階で到着するようであり、GRE試験に向けた学習の間に少しずつ読み進めていきたいと思う。

早朝の風がひんやりとしていてとても心地よい。時計の針が午前七時を指す頃、書斎の窓から外を眺めると、幾人かの人たちが自転車をこぐ姿を見た。まだ八月に入って十日ほどしか経っていないが、今の気温は10度前半であり、自転車をこぐ人たちは皆長袖を着ている。真夏のような暑さは消え去り、今日からはまた涼しい日々が続く。今日もまた自分のなすべきことを確実に前に進めていこうと思う。フローニンゲン：2018/8/9（木）07:08

No.1215: Autumn Blessing

It is cloudy all day long. Yet, it seems that a new seasons is blessing something. Groningen, 15:55, Wednesday, 9/12/2018

2956. 空と曲に喚起されるもの

時刻は午前七時半を迎えつつある。この時間は雲一つない晴天が広がっており、小鳥の鳴き声も聴こえてくる。

朝日がすでに街を照らしているが、外の空気はとても冷たい。本当に午後から雨が降るのかを観察するのが楽しみだ。

フローニンゲンで生活をするようになってから、空の様子を観察し、そこから天気について予想をするのが一つの楽しみになっている。この楽しみはフローニンゲンの変動する天候がもたらしたものだが、そのおかげで、空をよく観察し、空を愛でる気持ちが涵養されているように思う。

空の広大さによって心が解放的になり、時に陰鬱な表情を持つ空は私の内側の同種の感情を強めたりもする。空がどのような表情を見せたとしても、空は私の内面世界を深めることに大きく寄与している。今日も明日も、絶えず空を眺めながら自分のライフワークに打ち込んでいく。自分にできるのはそれしかない。

つい先ほど、一ヶ月前に作った曲を聴いていた。その曲のタイトルは「赤黒竜」というものだが、当時の自分がなぜこのようなタイトルをつけたのか定かではない。改めてこの曲を聴いてみると、赤と黒というよりもより柔らかい色を連想させた。ただし、当時の自分の感情は何か赤く黒い竜を彷彿とさせるものだったのかもしれない。あるいはこの曲の中にそうした竜の様子を見通すことができるような眼と感性を持っていたのかもしれない。

曲と感情は深層的に繋がっている。この曲を作っていた時に感じていたことをもう一度思い出してみようと思う。作曲実践を続けていると、こうした不思議な体験を何度もする。そこには常に自己の新たな側面の発見があり、自己を取り巻く謎が一つ一つ解明されていく。同時に、自己に対する謎がより深まっていくという相矛盾する特徴がある。作曲とはつまるところ自己発見なのかもしれない。

またそれは自己の発達とも呼べるだろう。作曲実践には発見と発達が絶えず内包されている。そのようなことを思う。

今日はこれから一曲ほど曲を作った後に、GRE試験に向けた学習を進めていく。午前中に読解セクションの模擬試験の問題を1セット解く。

先ほどコーヒーを入れていると、模擬試験の問題を解く際に私は随分と無茶なことをしていたのではないかと気づいた。GREの読解セクションはとにかく時間に追われるため、それは全力疾走を要求すると言っても過言ではない。これまで模擬試験の問題を解く私は、何ら準備体操のようなものをすることなく、いきなり問題に取り掛かっていた。準備運動をしないでいきなり問題を解いていては制限時間内に問題を解き終えることができないことも十分に生じ得ると思った。

今日からは、いきなり模擬試験の問題を解き始めるのではなく、準備体操がてらに過去に間違えた問題を少しばかり解き直すようにしたい。とても些細なことのように思えるかもしれないが、目をGREの問題に慣らし、思考と身体感覚をGRE試験用に切り替えていくことが大切になる。

準備体操として過去に間違えた問題を見返す際には、間違えた問題のパターンを再度把握するようにする。問題を解くに際してどのような点を見落としていたのか、どのような点に誤解があったのかなどを確認していく。二週間後に迫った実際の試験においても、試験会場に着く前に準備体操として対策問題集を眺めるということを行った方が良さそうだ。フローニンゲン：2018/8/9（木）07:46

2957. GREの読解セクションの対策

今昼食を摂り終え、これから午後の活動に入る。早朝は晴れ渡る空が広がっており、それを眺めていると、とても静かな気持ちに包まれた。どこか懐かしい場所を訪れた際に感じる優しい気持ちにも似た感情だった。些細なことかもしれないが、こうした自分の感情をつぶさに書き留めておく。現代人は自分が何を感じているのかに注意を払わず、自らの固有の感情をないがしろにしながら生きているのが常なのだから。

昼食後の今は、薄い雲が空を覆い始めている。天気予報の通り、あと数時間後には雨が降るかもしれない。今日は八月とは思えないほど肌寒く、先ほどまでは窓を閉めていたほどだ。

午前中はGRE試験の対策を進めていた。計画通り、読解セクションの模擬試験の問題を1セットほど解いた。これにて、対策問題集の中にある読解セクションの問題は全て解き終えたことになる。明日はこれまで解いた問題の復習を行うことにし、明後日からは、本番と同じ環境を想定したコンピューター上での模擬試験を解いていきたいと思う。

先ほど問題を解いた際には、準備運動として過去に間違えた問題を少しばかり復習することから始めた。このおかげもあってか、実際の問題に入りやすかったのを覚えている。ただし、今日も制限時間以内に全ての問題を解き終えることができなかったため、その点については手を打っていかなければならない。どうしても問題文を何度か読み返してしまう箇所があり、それは決して悪いことではないのだが、何度か読み返す割には問題文の理解が浅いことがよくある。これを改善していく方法を考えていく必要がある。

語彙を埋める問題の特徴として、文法構造が複雑であり、文意を取る際には不必要な装飾語が多く存在するものがある。そうした文章については装飾語に目を奪われるのではなく、文の骨組みを最初に捉え、全体の文意を把握するようにする。GRE試験で厄介なのは、確かに装飾語の多くは問題文を理解する際や問題に解答する際には役に立たないのだが、時に問題に解答する際にカギを握る場合があることだ。

昨日の日記で書き留めていたように、形容詞や接続詞を単なる装飾語として見落としてしまうのは危険であり、それらについては文章の中でどのような役割を果たしているのかをしっかり把握する必要がある。しかもそれを数秒から数十秒の間に行わなければならない点がGREの難しさである。

素早く正確に解答していくための方法をより模索していく必要がある。その際に、文章の中で大きな役割を果たす鍵となる言葉が何なのかを見極めることが重要になるだろう。明日から過去の問題を復習する際に、鍵となる言葉に敏感になっていくための感覚を養っていこうと思う。

今日はこれからハイドンに範を求めて一曲ほど曲を作る。ここ最近は毎日ハイドンを参考にしている。ハイドンを参考にして一曲作ったら仮眠を取り、仮眠後にGREのライティングセクションと数学のセクションの対策を行う。前者に関しては、模範解答の音読と採点基準の精査、後者に関しては模擬試験の問題を1セットほど解く。ライティングセクションに関しては、高得点を取得する文章がどのような

© YOHEI KATO 2018

質を持つものなのかが感覚的に分かり始めた。六年前や四年前に受験した際に、なぜ模範解答と採点基準を精査しなかったのか不思議なぐらいである。

当時と異なり今回は、単に文章を書く訓練をするのではなく、高い評価を受ける解答がどのような質を持ったものであり、そうした解答を採点者がどのような観点でどのように評価しているのかを押さえることに意識を向けている。今日の午後もGRE試験に向けた学習を行い、夕方には再び作曲をしたい。フローニンゲン：2018/8/9（木）13:14

2958. 自らの役割

時刻が午後の三時半を回った時、突然雷が鳴り始めた。最初の雷の音が聞こえてきてからしばらくすると、突然雨が降り始めた。天気予報の通り、今日は雨となった。この雨はこれから長い時間降り続けるようだ。

改めてもう一度天気予報を確認すると、今降り始めた雨は就寝時まで降り続けるようだ。また、明日の最高気温は20度、最低気温は11度と極めて低いことがわかった。明日と明後日は低い気温であるため、体調には気をつけようと思う。

今日はこれからGREの数学セクションの模擬試験の問題を解く。これは完全に気晴らしである。

日々の生活の中で、日記、作曲、デッサン、読書など、複数の実践領域に従事していると、実践を変えるたびに良い意味で気分が変わる。毎日多くのことに自然と従事することができているのはおそらく、複数の実践領域を持ち、それらの領域を行き来しているからかもしれない。

辺りに白い閃光が走った。近くに雷が落ちたようだ。雨脚がどんどん強くなっている。もう暫く雨の勢いは衰えることはないだろう。

早朝にぼんやりと考えていたのだが、現代人の多くは自分が何者であるか、この人生において何をなすかということを問うことなしに生きているのではないだろうか。そうした問いから目を背ける何かが存在しているにちがいない。人々はそうした問いと向き合う代わりに、金銭を獲得するためだけの

労働に勤しんでいる。果たして私たちの人生はそうしたことに時間を費やすために存在しているのだろうか。

現代社会は、時間的・金銭的な意味での搾取が横行しているだけではなく、この社会は私たちの人生にとって大切な問いすらも搾取している。そうした状況に人々が気づかないのはなぜなのだろうか。

自分の時間が搾取され、大した金銭も得られぬ望まない労働に従事し、人生にとっての大切な問いと向き合う機会が奪われていることに無関心でいられるのはどうしてなのだろうか。こうした無関心は形を変えて現代社会の隅々に蔓延っている。

無関心であるという状況を生み出す要因は複数のものが考えられるが、無関心そのものが身体的・感覚的なものであることを考えると、人々は自らの人生にとって何が大切なのかを捉える感覚が鈍化してしまっているのかもしれない。こうした感覚の喪失に対して芸術教育や霊性教育に何がなしうるのかを考えていく。それら二つの教育の中に現代社会に蔓延する種々の問題の解決に向けた洞察が隠れているように思う。そうした前提のもとに、今私は芸術教育と霊性教育の探究に乗り出している。

来週の頭には昨日注文したシュタイナー教育の書籍が届くだろう。シュタイナー教育における芸術性と霊性に関する教育思想と実践を学び、それを現代を生きる子どもたちのみならず、成人の発達に関連付けていく試みを始めたい。

これまで学んできたこととこれから学ぶことがどんどん繋がっていく。私の役割はおそらくこれなのだろう。芸術教育と霊性教育。ここに自らの役割を見出だし、それが自らのライフワークと密接に繋がっていることに気づき始めた。フローニンゲン：2018/8/9（木）16:02

2959. あの冬がやってくる頃：人生の暗夜

時刻は夜の九時半を迎えた。午後から雷が鳴り始め、激しい雨が散発的に降っていたが、今はすっかり雨が止み、静かな夜を迎えた。フローニンゲンも秋に着実に向かっているためか、もうこの時間は辺りが薄暗い。つい先月までは午後の十時半まで明るかったはずなのだが。

あの音が聞こえる。ひたひたと迫ってくるあの足音が聞こえる。

激しく厳しい冬。そう、それが着実に迫ってきているのを感じる。

早いものでこの冬を経験するのは今年で三回目になった。一年目の冬における精神的な厳しさ。それは二年目では随分和らいだ。

この冬、私は最大の精神的危機がやってきてほしいと思う。今のこの精神を奈落の底まで落とし、奈落の底の土をかじりたい。

精神的な自傷性。私はとことん自分に甘い人間なのだから、自らの精神を奈落の底に突き落とすような厳しい冬がやってくることを今年は願う。

どんな冬が来ようとも大丈夫なはずだ。自らの精神が自らを傷つけ、切り刻んだとしても全く問題がないように思える。

自分には日記があり、作曲があり、デッサンがある。そして、精神を支えてくれる書物、楽譜、画集がある。他に何が必要だろうか。

この世界のどこで何をやっていても自分は部外者のように思えてくる。自分は徹底的なまでにマイノリティーであるということ。生まれてから今までその刻印を背負ってきたように思う。

そのようなことを昨夜ふと考えていた。そして、今夜もまた考えている。

この世界のどこで生活をしていても、何をしていても、自分はマイノリティーであり、疎外された人間であるということ。それについてよくよく考えてみると、仮にそれが究極的な次元にまで引き上げられた時に、自己の固有性が顔をのぞかせるのではないかと思った。

そうかもしれない。そうであってほしい。

辺りは刻一刻と闇夜に近づいていく。人生の暗夜をいかに歩くか。いかに歩き続けるか。途中で止まってもいい。休憩をしながら歩いていけばいいのだ。

一歩前の道が闇によって全く見えないような暗夜が訪れてくれることを願う。自分の内面世界は光に満ち溢れ過ぎている。闇に盲目であることは、結局光に対しても盲目なのだ。

時刻は夜十時に近づいてきている。一体何を書こうとしていたのか覚えていない。だが、文章になろうとした内側の感覚を形にしたということだけは覚えている。とにかく書く。とにかく曲を作る。とにかく絵を描く。とにかく書物を読む。とにかく旅に出る。とにかく人と関わらないようにする。とにかく自分の人生を生きて行く。とにかく自分の役割を全うさせる形で日々を生きて行く。日々は「とにかく」で構成されている。

今日も独りで一日を終える。明日の始まりも独りだ。人生を終えるときも独りだ。生まれた時も独りだっただろう。

独りの先に待つ、「一者」及び「多者」で満たされた世界に飛び込んでいく。そこに飛び込んでいくために今日があったのだろうし、明日があるのだろう。フローニンゲン:2018/8/9(木)21:46

2960. 生気と正気が失われた現代

今日は六時前に起床し、六時を少し過ぎたあたりから一日の活動を開始した。昨日の雷雨はもう過ぎ去り、今はとても穏やかな景色が窓の外に広がっている。

柔らかな早朝の太陽が赤レンガの家々の屋根を照らしている。数羽の鳥たちが優雅に空を舞っているのが見える。

今日はそれにしても寒い。カレンダーを確認すると、まだ8/10とのことであるが、現在の気温は13度だ。窓を開けていると冷たい空気が部屋に流れ込んできてしまうので、今は窓を閉めている。また、温かい飲み物を飲んで身体を温めるようにしている。今日は最高気温ですら20度ほどのようだ。

遠くの空に白い雲の大群が見える。その行進はとても緩やかである。それはゆっくりと、だが着実に空を行進していく。手前の空は晴れ渡っているが、遠くの空にはそうした白い雲の塊が見える。

どうやら午前中に少しばかり雨が降り、午後からまた晴れるらしい。ちょうどチーズとナッツ類が切れてしまったので、午後に晴れてから行きつけのチーズ屋に立ち寄りたい。オランダで面と向かって生身の人間と話すのは、行きつけのチーズ屋かインドネシアン料理店を訪れる時しかない。

ここでの生活で最も頻繁に会話をしているのは、毎週に必ず立ち寄るチーズ屋の女性店主だろう。二人の女性店主がこの店を切り盛りしており、毎回どちらかの店主がいる。人と話すのは基本的に週一、二回、そうした行きつけの店に行く時だけである。30分以上人と話すのは、かかりつけの美容師であるメルヴィンと一ヶ月半に一度話す時ぐらいだろう。

こうした生活の送り方のおかげで、日々が随分と落ち着いたものとなり、自分が本当に取り組みたいと思うことだけに集中することができている。他者や社会からの雑音が入らない生活を送ることを心がけ、自分がなすべきことにこれからも邁進していきたいと思う。

昨夜は就寝前に一つ日記を書き留めていた。その後、就寝に向けて準備をしていると、新たに突発的な考えが浮かんだ。それは、本当に生きている人は本質的に爆発しているのではないか、というものだった。言い換えると、自らの人生を真実に生きている人からは、生命力がとめどなく溢れ出しているのではないか、ということだ。

生命力の発露がまさに爆発として知覚される。そのようなことを考えていると、現代社会においては爆発している人があまりに少ないことに気づく。それはとても嘆かわしい事態である。逆に言えば、この社会には生命力が不活性な人間があまりにも多すぎるのだ。生命力の減退は、各人固有の芸術性や霊性の抑圧ないし枯渇という現象とも関係しているだろう。現代は、生気と正気が失われた狂気の時代なのかもしれない。フローニンゲン:2018/8/10(金)06:57